

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 湖東会	代表者	柏瀬孝一	法人・ 事業所 の特徴	『住み慣れた地域の中で人としての尊厳を持ち、自らの意思と行動に基づき、幸せな人生をお送りいただけるように』という法人の理念に基づき、心をこめたサービス提供を心がけている。事業所は自然に囲まれた静かな環境にあり、窓が大きく明るく開放的な雰囲気の中でゆったりと過ごしていただける。利用者や家族の希望に即応できるよう努め、自立した在宅生活が継続できるよう支援している。
事業所名	白寿荘小規模多機能ホーム さくらの里	管理者	岩井加代子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	5人	人	1人	人	人	1人	2人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	内容について理解した上で自己評価を行う。	項目ごとに話し合いをして自己評価をまとめることができました。内容について理解することは、すぐには難しく、毎年取り組むことで理解を深めることができると考える。	運営推進会議の場で自己評価についてどうだったか評価することは難しい。 評価について共通理解する取り組みが必要。	職員間で評価項目について共通理解できるよう、話し合いの機会を持つ。
B. 事業所のしつらえ・環境	落ち着いた雰囲気の中で過ごしていただける環境を維持する。	毎日、掃除や消毒をしている。日当たりもよく、心地よい空間の中でのんびり過ごされている。	奥まっているので入りにくい。 看板に枝がかからないようにしないと見えにくい。 施設特有のにおいが無い。	看板周囲の枝を整理する等、事業所の入り口が分かりやすいようにする。 事業所内の清潔を保ち、心地よく過ごしてもらえる環境を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事への参加だけでなく、事業所に来てもらえるようなイベントを実施する。 定期的に広報誌を発行する。	地域の方に行事に参加していただく機会を増やすことができました。 定期的ではないが広報誌も発行できている。	広報誌を有効に利用し、もっとPRした方がよい。 事業所が色々な人の居場所、寄れる場所になれるとよい。	広報誌を発行し、近隣地域へ回覧する。 地域の方が事業所へ来てもらえるイベントを開催する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の集まりやイベントへ積極的に参加する。	地域のイベント等に誘っていただけが増えた。	事業所に直接関係すること以外でも聞いてもらえるところ、気楽に寄っている中でちょっと相談することができたらよい。	送迎や訪問時に利用者の住んでいる地域の方と出会ったときには挨拶をする。事業所に地域の方が来られたときは、事業所に直接関係すること意外でも気軽に相談してもらえることを伝える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域とのかかわりを深めるための方策について意見をいただき、具体化する。	運営推進会議で出た意見については、すぐ実行するように努めている。	質問したり意見を言ったりすることで理解が深まった。 活発に意見交換できている。 建設的な意見が多く出ている。	運営推進会議で出た意見で、できることはすぐに実行する。 すぐに実行できなくても、どのように日々の実践に生かすかを職員間で検討する。

F. 事業所の 防災・災害対策	防災計画を作成し、防災意識を高める取り組みを実施する。	防災計画は現在作成中である。避難訓練だけでなく、利用者に分かりやすい防災についての勉強会も検討する予定である。	防災計画の中で、災害時に事業所として地域の方の受け入れ等明確にする必要がある。 障がい者や高齢者の避難について、地域とともに考える。	防災計画を作成し、運営推進会議に提示する。
--------------------	-----------------------------	---	---	-----------------------